



2022.10.7
第179号

発行
 村議会 支会 支会 支会
 町議 支会 支会 支会
 市協議 津支 支
 県教委 津支 支
 島教育 津支 支
 連絡会 麻沼
 北耶両

編集
 福島県教育庁
 会津教育事務所

編集協力
 小・中学校長会

今こそ 教師の意識改革を



北塩原村教育委員会
教育長 石本浩一

現行の学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指し、資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理している。平成二十年版では、「生きる力」を育成するために「知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランスを重視することとされていた。「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」が並列とされたのはなぜか。

確かに知識・技能の習得には「自ら考え、判断し、理解する」という学びが欠かせない。だから、「知った結果、できるようなった結果のもの」と過去形ではなく、「追究しよう、できるよくなるよう」というエネルギーをもとに、「試行錯誤しながら獲得していくもの」と現在形や未来形で捉え直さなければならぬ。なぜなら、そここそが思考・判断・表現を支えるその子なりの個性的な知識・技能となり得るからだ。

指導要録の評価の観点、さらに評価の仕方についても変更されている。日々の授業ではどうだろうか。教師から教えられた知識を覚え、それをできるだけ正確に再生する記憶再生型の授業や教師主導で学習のめあてを捉えさせ、学習内容・方法を提示し、取組の状況に応じて個別指導を行うという効率化を求めた授業から脱却できているだろうか。今こそ、生活科が新設されたときに大切にされた「熱中する姿。追究し続ける姿」すなわち子ども一人一人が主体的に格闘しながら五感を働かせて探究し、知の創造を図っていく学びへの転換を図り、守破離を心がけ多様性を生み出していくことが求められている。教師みんなが意識改革を進め、子どもたちを未来社会の創り手として育成できる授業へと変革させていかなければならない。時代を彩るキャッチフレーズが、教師主導の知識偏重・知識伝達主義の深刻な現状を覆い隠す「無花果の葉」とならないために。

信頼を取り戻す

前期は、五月二十四日から七月十二日にかけて六十校を所長（管理）訪問させていただきました。各校においては、基本的な新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、教育活動が展開されておりました。また、授業では、子どもたちがめあてを意識し目を輝かせて活発に話し合う姿や、効果的にICT機器を活用する場面が数多く見られ、「学びの変革」が推進されていることを感じました。

さて、所長（管理）訪問以外にも、各種研修会や会議等において、管理担当から不祥事防止について共通してお願いをしました。

各学校においては、「自校から不祥事を絶対に出さない」という強い決意の下、不祥事根絶のための行動計画を基に、服務倫理委員会や研修会等を工夫されているものと認識しています。

一方で、令和三年度における会津域内での懲戒処分は五件、県全体では三十一件に上り（令和二年度は県全体で十件）、県民の本県教育への信頼を根底から揺るがす危機的な状況にあります。子ども・保護者・地域住民からの信頼があつてこそその学校教育です。信頼を取り戻すためには、私たち教職員一人一人の高い使命感、そして倫理観と服務規律を厳守した行動が必要不可欠です。

会津教育事務所では、信頼される学校づくりのため、不祥事防止についても情報提供に努め、先生方が自信と誇りをもって教育活動に力を発揮できるよう支援してまいります。

ステップアップ「Aizu」(授業サポートセミナー)

～ 域内の先生方(教諭・講師)の自主学習会に参加しませんか ～

会津教育事務所

会津教育事務所では、指導の方法やスキルを身に付け、授業力や学級経営力の向上を図ることができるように、先生方(教諭・講師)を対象としたステップアップ「Aizu」(自主学習会)を開催しております。

8月は、「道徳実践講座」や「不登校児童生徒への支援講座」など6つの講座を開催し、延べ100人もの先生方が参加されました。「道徳実践講座」に参加された先生方からは「学習指導要領と教材を読み合わせる大切さを再確認することができました」「まとめの時間を確保できるように、資料読み取りの押さえ方、発問、話し合いの設定を工夫していきたいと思いました」等の感想がありました。今後のセミナーの実施案内を御覧になり、ぜひ御参加ください。



自主学習会の様子

〔参加対象者〕

- 域内の小・中・義務教育学校の教諭・講師の希望者
- 〔講師〕
- 会津教育事務所職員
- 〔定員〕
- 14名程度
- 〔時間〕
- 15:30～16:45
- 〔会場〕
- 会津若松合同庁舎内

【今後のセミナー(令和4年11月～令和5年1月)】

- クラウドを使った授業づくり～Googleフォーム基礎編～
- 授業のユニバーサルデザイン～子どもの多様性に応じた授業づくり～
- 小学校国語科授業づくりセミナー
～「発問」「単元」で考える～
- 中学校国語科授業づくりセミナー
～「発問」「単元」で考える～
- ICTを活用した授業づくり～保健体育科～
- 道徳実践講座②～問題解決型の授業にチャレンジ～
- 算数・数学授業づくり実践講座②
～全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査結果を活用した授業づくり～



※詳細は実施案内参照

令和4年度 会津教育事務所 指導の重点【後期】

「学びの変革」による個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの実現

会津の強み【これまでの学校訪問や各校の学力向上の取組から】

- 1 児童生徒の興味・関心を高め、思いや問いを引き出しながら「めあて」を設定する授業が多い。
- 2 ねらいを達成させるために児童生徒の思考の時間を確保し、様々な言語活動やICT機器等を活用した活動を取り入れ、考えを広め深める授業の工夫が多く見られる。
- 3 学びを支える学級集団づくりに取り組むとともに、個に応じた補充的発展的な学習の機会を設けている学校が多い。
- 4 家庭学習の習慣が身に付き、計画的に家庭学習に取り組む児童生徒が増加している。
- 5 学校ぐるみでいじめや不登校の未然防止、及び将来的な社会的自立を目指した心温まる指導が行われている。

会津の課題【令和4年度全国学力・学習状況調査結果等から】

- 1 全国平均正答率を見ると、国語はやや下回り、算数・数学と理科は下回っている。
- 2 自分の考えや意見を言葉で説明したり、記述したりすることが苦手な児童生徒が多い。
- 3 不登校児童生徒が年々増加傾向にある。(1,000人あたりの出現率が全国平均を上回っている。)
- 4 平日にテレビゲーム(スマホを含む)等を行う時間が増加している。

目標1

授業での言語活動の充実

指導の重点

- 1 主体的に追究・解決できる時間を確保する。
 - 2 まとめ・振り返りの時間を確保する。
 - 3 授業と家庭学習を連動させる。
- ※「授業スタンダード」、「家庭学習スタンダード」「English Compass」の目的に応じたさらなる活用

目標2

新規不登校児童生徒の出現防止

指導の重点

- 4 教師による「居場所づくり」と児童生徒による「絆づくり」を促進する。
- 5 組織的な早期発見、早期対応による未然防止に努める。
- 6 「個別の援助計画」をもとにチームで支援する。
- 7 学習機会の拡充とその情報提供をする。

社会教育の取組

～読書活動支援者育成に向けて～

福島県教育委員会では、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指し「ふくしまの未来をひらく読書の力プロジェクト」として、子どもの読書活動の推進や学校や図書館で活躍できる読書ボランティア等の人材育成及び資質向上を図る研修会等を実施しています。

会津教育事務所では、令和4年8月5日に会津若松市文化センターにおいて「読書活動支援者育成事業会津地区研修」を開催しました。学校や地域の読書活動推進を担っている読書ボランティアや司書等33名が参加されました。



「絵本のある心豊かな生活」
石井 修一氏

「話して見つける本屋石川屋（田村市）」代表の石井修一氏からは、小中高生の読書の現状、絵本のもたらす影響、絵本を通して「知る・考える・伝える」について御講話いただきました。絵

本は、親子のコミュニケーションツールとして、挿絵や構成に隠された情報を一緒に読み解いていく楽しさがあります。また、大人でも子どもの頃に読んだ絵本を再度読んでみると新たな発見があったり、表紙や挿絵を美術

作品として鑑賞したりすることで、深く絵本を味わえるとのお話がありました。

「ばんげ読み聞かせの会」の鶴見美佐子氏からは、東日本大震災後、避難所となった旧川西公民館で読み聞かせ活動を行った経験を御紹介いただきました。当時、子どもたちが元気になれるよう



「2011.3.11東日本大震災を忘れない」鶴見 美佐子氏

な楽しい本を選びましたが、多くの笑顔が見られるまでには至らず「風邪を引かないでね」と声を掛けるのが精一杯だったそうです。現在は、震災語り部として、会津自然の家を訪れる小学生に当時の様子や絵本の読み聞かせをし、震災の記憶を伝えていらっしゃいます。

参加者からは「絵本の奥深さを自分自身が楽しみ、保護者や子どもたちに伝えていきたい」「震災を知らない子どもたちが自ら関心をもって考えるようなきっかけ作りをしていきたい」等の感想がありました。

今後も、読書活動推進のための研修会や情報提供を進めてまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

我がまちからの情報発信

金山町教育委員会

かねやま「村の肖像」プロジェクト

金山町では、地域の歴史を伝える古い写真や映像を保存・活用する取組として、「かねやま『村の肖像』プロジェクト」を進めてきました。町民が保管してきた昔の写真や8ミリフィルムなどの映像資料を、20世紀の町の姿を伝える貴重な文化遺産として、町の人々が主体的に守り、活用することを目指した事業です。

平成28年から30年にかけて、町内12地区でワークショップを開催しました。地区の方々に写真の提供を呼びかけ、みんなが持ち寄った写真を見ながら、写真にまつわる思い出や感想などを自由に話し合う集まりです。これは、資料の収集の場であるとともに、世代を超えて町の歴史や文化を学ぶ生涯学習と交流の場でもありました。

この取組を通して寄せられた、1万件を超える多彩な映像資料から171点を選び、テーマごとに分類・整理した写真集「山のさざめき 川のとどろき」が、平成31年2月に発行されました。

また、令和2年春には、プロジェクトを通じて収集・デジタル化された映像資料の大部分が、新潟大学地域映

像アーカイブ研究センターのオンライン・データベースに収載されました。

(<https://arc.human.niigata-u.ac.jp/malui/#!page1>)

なお、地域映像アーカイブのデータベースは、国会図書館が運営するJapan Searchを通じて資料の検索・閲覧が可能となっています。

資料のデジタル化・整理を行うことで、各個人の努力によって保管されてきた資料を公共的な財産として守り、次の世代へと伝えることができるようになりました。今後はさらに、子どもたちに町の現代史を伝えたり、町の歴史・文化を町内外に発信したりして、人々が自らのアイデアで過去の映像を町のために役立てていけるように資料の整備と活用を進めます。



ワークショップの様子

各学校の特色ある取組紹介

ESD達成のための協力体制

会津若松市立大戸小学校

本校は、平成3年に緑の少年団が結成され、平成29年にユネスコスクールに認定されました。この2つの活動は、ESDの観点に深く関わりがあります。本校では、ESDを行動に移すことができる児童の育成を目指しています。

まず、緑の少年団活動は、スローガンである「緑と花の学校」のもと、学校緑化活動に取り組んでいます。広い花壇に毎年1000本以上の花の苗を植えています。地域学校協働本部との協力体制が構築されており、保護者や地域のボランティアの協力を得て植えています。その活動を通して草花を



地域ボランティアの協力



学校緑化で取り組んでいる丸花壇

大切にしている気持ちが育まれています。

次にユネスコスクールの活動です。「学校生活での節電、節水、給食を残さない」という目標をもって取り組んでいます。また、ユニクロが行っている「服のチカラプロジェクト」の活動にも参加しています。世界の紛争地域や貧しい生活をしている子どもたちへ、小さくなった子ども服を届けるというプロジェクトです。この活動も子どもたちを通して、保護者に協力をいただいております。今年度は、地域に広げていこうと考えています。

学校で「こうしたい」という願いが、保護者や地域の方々の協力で実現できることを実感しています。今後もESDを実現するために行動できるような子どもたちの育成を学校・保護者・地域で推進していきたいと考えています。

※ESD：持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習、教育活動

この機を生かしてICTを学校の特色に

磐梯町立磐梯第二小学校

本校のICTについて、タブレットや大型電子黒板、高速大容量ネットワーク回線が早めに整備され、町からの期待の大きさを感じました。これらを積極的に活用できるよう、学校全体で検討しながら進めています。

まず、本校の強みは、全校児童52名という機動性のよさです。各タブレットの設定や操作の支援も行き届きます。さらに、ICTに抵抗のない職員が多く、効果的な活用事例があれば紹介し合える雰囲気があります。この強みを生かす



全校児童をつなぐオンライン集会

「積極戦略」として、Google Classroomを活用し、教師と児童、児童同士をつなげる実践を数多く取り入れてきました。Google Meetで全校児童のタブレットをつなぐオンライン集

会やリモート授業。Jamboardで付箋機能を使った共同作業。スプレッドシートを使って単元全時間分の振り返りを1枚の表に記載させたり、課題を送って提出（送信）させたりする取組等を行っています。

その一方で、弱みを克服する「改善戦略」も考えました。小規模校ゆえ児童が多様な意見にふれる機会が多くはありません。そこで、Google Meetで近隣校とつながる機会をもてるようにしています。これに慣れてくれば、いずれは県内外、または海外との交流も可能と夢も膨らみます。

これらの取組を通してICTは身近なものとなっています。そして現在進めているのがデジタルシチズンシップ教育です。夏休みの持ち帰りを前に、町教委と連携して家での使い方を見つめ直す時間を設けました。一人一人が生活の中での行動の優先順位をつけたあと、自分が使いたいメディアについての長所や短所、夏休み中の1日に使いたい時間、注意点を書き出しました。メディアとの上手な付き合い方を自ら考えさせることで、自律心を育てています。

課題の共有と実践

会津坂下町立坂下中学校

坂下中学校は会津坂下町の統合中学校として、11年目を迎えました。町の基本理念（学びあう・競いあう・認めあう子どもの育成）のもと「一つの学園構想」具現化のため、小中学校で課題を共有しながら実践しています。

1 学習指導の改善に向けて

小中の共通実践【活躍・共感、共有・比べさせる・決場の場・声】に基づく授業展開を意識しています。週案にチェック項目を入れて日々の授業を振り返ります。また、校内の研修では職員間での実践内容や工夫を共有しています。

①5つのKを大事にした授業を行っているか	活躍させることができるか
	共感・共有させることができるか（うなずき、つけたし等）
	比べさせることができるか
	決定させることができるか
	声を出させることができるか

日々のチェック項目の一部

2 特別支援教育の充実に向けて

令和3・4年度特別支援教育センタープロジェクト研究協力校として実践を進めています。特別支援学級の増加に伴い、効果的な指導や支援の在り方について職員のスキルを高めることは喫緊の課題です。



授業づくり検討会

- (1)交流、共同学習の授業づくり
- (2)校内体制づくり

を柱としながら即実践を意識しています。

特別支援教育センターの実践研究・発表だけが目的ではなく、今後を見据え、本校の教育活動の活性化につなげるように取り組んで行くことが大切だと感じています。